

<b>第3回 第1分科会会議録（概要）</b>		場 所	戸塚特別出張所 地下一階会議室
日 時	平成17年7月22日（金） 午後7時00分～午後9時20分	記録者	【学生補助員】 守田 哲、長屋修司
		責任者	区事務局（菊地、並木）
<p>会議出席者：39名 （区民委員：30名 学識委員：2名 区職員：7名）</p>			
<p>■配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゆったりーの資料</li> <li>・ 戸山プレイパーク資料</li> <li>・ 第2回会議録</li> <li>・ テーマ別メンバー表</li> <li>・ KJ法について</li> <li>・ 第4回・第5回開催通知</li> </ul> <p>■進行内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第2回分科会での内容確認</li> <li>2 現場からの報告 ゆったりーの・・・小原聖子委員 戸山プレイパーク・・・長谷川久美子委員</li> <li>3 グループ討議</li> <li>4 グループ討議の報告</li> <li>5 事務連絡</li> </ol> <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第2回分科会での内容確認</li> </ol> <p>○：第3回目の分科会を開催します。本日は前回説明したとおり、現場からの活動報告、グループ討議を中心に進めていきます。</p> <p>◎：（杉山）今日は夜のせい欠席の方が多いですが、皆さん2時間頑張ってください。今日は時間管理に十分留意し、9時に終了したいと思います。皆様のご協力をお願いします。</p> <p>グループ討議に関してですが、グループ毎に本日の進行役と記録係を決めて下さい。これは輪番制が望ましいかと思われます。特に記録係の方には、今日の記録を事務局に提出して頂きます。その理由は、今日欠席された方のために討議の内容をお伝えするためですので、欠席された方にもわかり易い内容を心がけて下さい。進</p>			

行係の方はグループ討議が終了したのち、討議の結論を発表し、全体にフィードバックして頂きます。どうぞよろしくお願ひします。

◎：(汐見) こんばんは。今日から実質的な議論が開始されます。頑張っていきましょう。手元の第2回会議録を見て下さい。前回、次世代行動計画の説明をしたのですが、今日の討議はこうした計画の意図を理解した上で区民の方々の立場からご意見を頂きたいと考えております。グループの分け方は前回の会議の結果を反映しました。討議の方法ですが、KJ法を用いたいと思います。KJ法については配布資料を見て下さい。

討議においては、二つのことを留意して下さい。一つは、子育てしている世代がどのような状況にあるのかという現実に合わせて討議をして下さい。観念的な議論を避けるためです。二つ目は、一つ目を踏まえた上で、新宿区ではこういう取り組みが必要だという提案をお願いします。どうぞよろしくお願ひします。

## 2 現場からの報告

●：(「ゆったりーの」小原)

### 《「ゆったりーの」概要》

「ゆったりーの」は新宿区北山伏子育て支援協働モデル事業として、地域の子育て当事者が主体となり、利用者全員がアイデアと資金を出し合う会員制で運営しています。会員は、正会員・賛助会員・団体会員・ボランティア登録制度があります。「ゆったりーの」は、親・子・地域の交流の場所として、『ゆうゆうひろば』(親子の交流スペース)『わいわいステーション』(子育て支援団体拠点)を提供しています。場所は北山伏町にあります。

### 《活動報告》

小原と申します。みなさんこんばんは。私は、新宿に8年前に引っ越してきました。学生時代から今に至っております。共働きの生活を続けておりました。子供の保育園が廃園される事をきっかけに、存続活動を行う中で地域のつながりができ、「ゆったりーの」を作りました。保育園は廃園されたのですが、跡地を「ゆったりーの」活動場所として使用しています。私個人も子育てのために職場の第一線から遠ざかり、次の活躍場所を探している最中で、好機でした。子育て支援には全くの素人でしたが皆さんの力を借りてなんとかやってきました。

「ゆったりーの」は最初、ワークショップとして立ち上がりました。雰囲気はまさしく本分科会と同じような感じです。パンフレットをご覧下さい。「ゆったりーの」は場の提供だけで、保育園とは違います。会員制なのは、最低限のつながりを確保するためです。

利用者の平均をグラフにしています。4月からの3ヶ月間、のべ63日1039組、2321人が「ゆったりーの」にきました。1日あたり、16.4組、36.8人です。土曜日は少な

いのですが、お父さんが多いです。月・火曜は三歳未満限定。水・金は未就学児限定で午後は幼稚園児に限定していますので、盛況を極めています。最高記録は、1日で43組98人です。利用者が百人を超える日はそう遠くありません。既に施設の収容人数を超えつつあり、イベントをやってもやらなくても人数は変わらないほど盛り上がっています。保育園は年齢が低いほど保育士の数が多くなりますが、集いの広場では年齢が上がるほどスタッフの数が多くなっています。それは、年齢が上がるにつれ、子どもは親から離れて遊び、親の目が届かないことが多くあるため、スタッフが目配りしているからです。また、地域のつながりが薄いせいか、保護者同士がお互いを干渉しない傾向があります。子供が喧嘩したときとにかく謝るといった例です。他の子をしかることができない。そこでスタッフはできるだけ干渉するようにしています。資料を見て頂ければわかるように、子供は近隣の遊び場がなくて困っています。そこで、「ゆったりーの」では保育園の名残である草木を利用して自然が豊富な遊びを提供しています。「ゆったりーの」は遊び場のニーズを捉えています。また、「ゆったりーの」は『居場所』がないという事への不満も満たしています。また、相談相手としての役目も果たしています。といのは、オープンカウンターのカフェを設け、育児相談という看板をあえて掲げない育児相談を行っています。保護者にあまり構えずに育児についてオープンに話してもらいたいからです。最近カフェの利用者が多すぎて立錫の余地もありませんが、保護者が自発的に協力して動いているのでなんとか運営できています。リサイクルシステムや、イベント協力など参加者が運営側に回る仕組みも考えています。データとしても出ていますが、一般的な遊び場の利用頻度が高いほど、子育てのストレスは小さく、育児のストレス解消にも一役買っています。また、利用者が多いほうが団体として対外的に評価される傾向にあります。これからはお互いの人間関係を充実させるためにもっと中身を充実させていきたいと考えています。有難うございました。

●：(長谷川) 戸山遊び場の長谷川です。私たちは7年前に活動を始めました。活動のきっかけは、子供を公園で遊ばせたいが、危険を感じる。そこで親同士が協力して安全に子供を遊ばせ、ローテーションを組んで子供の安全を守りつつ、子供の様子を把握するために水曜遊ぼう会が発足しました。親同士、子供を遊ばせる中で普段の生活で遊びに対する活動の制約が多いことに気づきました。それから活動の輪が広まってゆくにつれ、色々と公園管理所の人が協力してくれ、ホームレスを立ち退かせてくれたり、遊び場の周りに柵を作ってくれたりしました。

現在は、プレイパークとして東京都に認定され、都市公園法の縛りを解いて、穴を掘っても、木に登ったりしても良いことになりました。東部公園緑地事務所も後援団体としてサポートしてくれています。参加者の年齢層ですが、現在は乳幼児から高校生まで非常に幅広いです。1日、延べで70~80人くらいです。有給のプレイリーダーを2名雇っており、助成金で賄っています。遊び場のコーディネートだけでなく、他の人間に対

する研修・養成もしてくれています。

私たちのコンセプトは、子供時代に遊びの思い出を作りたい。遊び場ではやりたいことをやらせ、失敗を推奨し、一つのモノサシを押し付けないというものです。好き勝手に遊んでいると、問題が起きる事もあります。これは大人にとっては手のかかる事ですが、その問題を逆に子供達に投げかけ、解決の糸口を探ることで子供の自立と成長を促すことが出来ます。私たちのモットーは『自分の責任で自由に遊ぶ』です。活動は盛況を極めているのですが、これ以上活動時間を増やすと、プレイリーダーが更に必要になり、金銭的にも人数的にも活動が難しくなってしまいます。今日は、皆さんもこうしたニーズがあることを踏まえた上で今後の討議に活かして頂きたいと思います。スライドも持ってきましたのでどうぞご覧下さい。

《スライド》

・穴掘り・木工・芋ほり・ベーゴマ・水遊び・リヤカー改造・木の実遊び・ロープ遊び・ハンモック・ウォータースライダー作り・ダンボール遊び・落ち葉のプール・べっこう飴づくり 有難うございました。

### 3 グループ討議

◎：(杉山) さて、次はグループ討議です。先ほど、汐見先生がご指摘された二点を十分留意して議論して下さい。沢山の提案をお待ちしています。

《グループ討議》

### 4 グループ討議の報告

◎：(杉山) それでは発表です。発表していない班の方も他の班の発表にしっかりと耳を傾けて下さい。

- (乳幼児) 乳幼児です。まとまりませんでしたので、問題提起を雑駁ですが、ポイントごとで話していきます。子供の居場所が少ない。親の人間関係作りが難しい。街の治安が悪い。危険な交通。死角がある。子供が遊ばない。体が虚弱。過干渉がない。問題解決能力がない。喧嘩は良くないと建前を大人が言うため、喧嘩もせずに他人の痛みを理解できない。言うまでもなく、喧嘩の原因を考えない。自立した子供を育てるべき。といった事が問題意識として挙がりました。新宿への提案として、次のようなものがありました。公園監視員があってもいいのでは。高齢者と若者の関係を充実させ、豊かな子育てを推進すべきである。中央公園で高齢者が見守り隊として貢献すべきである。行政と住民のパートナーシップを充実すべき。資金的な面、施設のな面。ことぶき館と「ゆったりーの」との協力を推進すべき。区の場合当たりの政策。緊縮財政とハコモノ行政の背反が見られる。ボランティアへ何らかの見返りを保障すべき。

少子化の対策として、『多様なサービス』とあるがこれは子供の視点に立ってはいないのではないか。といった事がありました。以上です。

- （親教育）テーマとして重いですが、頑張ります。子供は親の教育を100%受ける。子供は親の育てたようにしか育たない。お手本であるべき親が育児放棄している。自己抑制力がない。育児の方法がわからないということを実感していない。人の話を聞かない親、他人を受け入れない親をどうするか。コミュニケーション力がない親がいる。実は無駄話は無駄ではない。かわいがるという事を甘やかす事と履き違えている。日本が物質的に豊かになってきたため、大人が我儘になっている。一家団欒で話す事の必要性。お互いの子育てを話す場の必要性。親の意識を変える必要性。
- ：（小中学生）子育てに関する場の地域間格差が大きいのではないか。例えば、西落合には遊び場を作るスペースが無い。地域のつながりが無い。年寄りと若い人のコミュニケーションが無い。相談室といったインフラが活用されていない。親が孤立している。相談する相手がい無い。私たちの結論としては、実態を良く把握できていない。とにかく学校の見学をしたい。先生と、教頭でもいいからダイレクトに話したい。区長のスローガンが『協働』ならば、そういった場を推進すべきだと考える。
- ：（地域）子供を遊ばせたいが、危険に対する不安がある。過剰な管理を進めないで安全性を確保すべき。予算面で問題があるかもしれないが、地域も関われる事も多い。若い学生のメンバーからは自分たちも協力できる場所があると思うという意見が出た。
- ：（青少年）青少年の居場所について議論した。そもそも青少年に対する施策が少ない。薬物の問題、性の問題に対して青少年が立ち直るための居場所がない。こういった問題は地域の関わりをもつことで解決すべきだ。人の気持ちを理解する場を作るべき。こうして心の発達を促す。大人の意識の改革も必要だ。受験勉強のストレスが影響しているのではないか？青少年が主体的に活動できる場が必要。「ゆう杉並」の例が望ましい。施設も充実しており、子供たちがルールを作って大人が指導できる場になっている。逆に親がガツンと言う場も必要。
- ：（環境）どういう人間像を望ましいかを明確に考える必要がある。その前にまずは、どういう社会が望ましいか。というビジョンと背景について考えるべき。少子化は別に悪いことではない。少子化が悪いという前提で話すのはおかしい。人口が減ることでも何らかのバランスが取れるのではないか。人間が大事にされるのでは。未来社会に対する明確なイメージが必要であるべき。子供の実情として、バーチャルリアリティ漬け。実体験が不足している。総合学習が学校によってまちまちなのが問題。これは

ビジョンが無い事に起因している。とにかくビジョンが、未来社会や世代毎といった色々なレベルで必要だ。そうすれば教育に対する意識も変わる筈だ。

◎：(杉山) お疲れ様です。皆さんの話にあったように、学校の先生を呼んでみるとか、乳幼児グループが「ゆったりーの」を見学するとか、青少年グループが「ゆう杉並」を見学するとか、そういった行動を起こすことは可能です。それぞれ事務局の方に相談してください。最後に汐見先生からまとめて頂きます。

●：(汐見) お疲れ様です。やはり、区民として一般論ではなく、こと新宿にある問題を取り上げられるべきです。例えば、高齢者の力を引き出すべきという意見は大切だと思います。少子高齢化社会の中で子供 — 親 — 高齢者の三世代の力を利用するべきにも関わらず、これは新宿区に欠けている視点です。ここは突っ込んで考えれば可能性はあります。模索していくべきだと思います。基本的に議論の方法としてあまりテーマを広げずに集中して議論してゆくのが望ましいと思います。

各論ですが、今の親の姿勢も問題です。親自身がもっと自分表現する場が必要です。

一緒に育児について話す事が出来る場が必要だと思います。その点、「ゆったりーの」は好例です。この点、皆さん重要性を認識してらっしゃると思いますので更に議論を深めて欲しいと思います。

地域間格差の話が出ましたが、私は地域間格差というのはむしろ肯定すべきではないかと考えています。というのは、地域同士の格差があるとむしろ競争心が高まるからです。また、治安の問題が出ましたが、過剰でない管理を行わない上で地域と行政が協力して活動してしていくべきというのはごもっともです。それを前提にして、子供が怪我をしないためには、小さな怪我をする必要があるということです。そういった子供に様々な経験をさせる場が不可欠で、そういう場を作るべです。

最後に、青少年教育に関しては日本はとても遅れています。中高生に地域との関わりを持たせ、社会における役割を果たさせるべきですね。それによって人間的成長のきっかけを与えるわけです。それによって、ネットワークを作る事ができると思います。

どこのグループでも非常に真剣な討議がなされて良かったと思います。次回までに調べておくことなどを確認しあって次回に活かしてください。

## 5 事務連絡

○：9月の日程を決めたいと思います。これだけの人数ですと皆さん全員の良い日というのは難しいと思います。申し込みの時にいただいた、色々な意見を踏まえて、現在は昼と夜を交替で開催しています。先生のご都合もあるので、9月も昼1回、夜1回でいかがでしょうか。

- ：夜だとお子さんがある人が出られない。今日もこんなに欠席者がいる。
- ：昼だけの実施にすると、お勤めされている方がまったく出られなくなってしまいます。せっかく参加していただいているのだから、少しでも多くの皆さんに参加していただきたいと考えています。
- ：土曜日の夜であれば、お父さんが子どもを見ていてくれればいいので、出やすいのではないのでしょうか。
- ：休日でも構いませんが、休みの日は家族で過ごすのでやめてほしいという意見も出ています。本日、ご出席の方の意見は色々聞かせていただきましたが、欠席されている方は、お子さんのいらっしゃる方が多いので、こちらでも意見を聞かせていただき、次回日程を決めたいと思います。
- 今日は皆さんお疲れ様でした。

次回日程

**第4回**

日時：8月9日（火）午後6時30分～8時30分

場所：新宿区役所 第一分庁舎 7階研修室

**第5回**

日時：8月22日（月）午後1時30分から3時30分

場所：新宿区役所第二分庁舎（旧四谷第五小学校）1階 1-⑦会議室